

01DE201

言語文化社会論 I

(Studies in Language and Culture in Society I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 5時限

担当教員 大塚 秀明

研究室 人文・社会学系棟 A705 (内線: 4164)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

ある言語を文化あるいは社会から考察するとき、系統は異なるが歴史的なつながりがある言語との比較を通じた研究が考えられる。授業では日本語と中国語を取り上げ、特に日中語彙交流の先行研究を読み、各自が課題を設定し、レポート作成を目標とする。

授業概要

荒川 清秀「日中漢語語基の比較」(国語学 2002 53-1)と陳力衛『和製漢語の形成とその展開』(汲古書院)から始め、研究の可能性に応じて関係する論文著書を演習形式で読み進める。

成績評価方法

年間2本の提出レポートと授業中の出来具合等を加えて総合的に評価する。

その他

特になし

01DE203

国際言語文化政策論 I

(International linguistic and cultural policy studies I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 月曜日 2時限

担当教員 津田 幸男

研究室 人文・社会学系棟 B712 (内線: 4156)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

1. 国際的な言語・情報・文化の諸問題の探求
2. 特に「英語支配」「危機言語」問題の理解を深める
3. 上記テーマに関する論文を執筆する

授業概要

- 1学期：「学問への心構え」「論文の書き方」「英語支配」について学ぶ
- 2学期：言語問題に関するテキストの輪読、討議
- 3学期：論文執筆と個人指導

成績評価方法 以下の3点を基に評価する

1. 講義への出席、参加、発表
2. レポート（1,2学期）
3. 論文（3学期末提出）

その他

特になし

01DE205

言語情報論 I

(Language and Information I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 金曜日 2時限

担当教員 小野塚 裕視

研究室 人文・社会学系棟 B605

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

英語の動詞の統語論と意味論に関する知見を深めてもらうことを目標とする。今年度は英語の進行形に関わる問題を扱った論文をいくつか読んで、どのようなことが問題になっていてそれがどのように処理されるのかを考察する。

授業概要

1学期から3学期まで進行形に関する論文を読んでいく。論文は最初の授業の際に紹介する。

成績評価方法

年間で2本のレポートを提出してもらう。さらに授業中の出来具合等を加えて総合的に評価する。

その他

特になし。

言語情報処理論 I

(Lecture on Language Information Processing II)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 2時限

担当教員 宮腰 幸一

研究室 人文・社会学系棟 B607 (内線: 4117)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

語彙意味論と統語論に関わる最近の研究を詳しく検討しながら先行研究の問題点と今後の課題を明らかにし、受講者自身が最先端の研究（またはそこへ向けての基礎的な研究）をすることができるようになることを目標とする。

授業概要

主に日英語の副詞的修飾関係に関する研究を取り上げ、その妥当性や今後の研究の方向性について、動詞の語彙概念構造・事象構造に関わる諸問題（動力学、アスペクト、スケール等）と合わせて考察する。

成績評価方法

毎週の授業への参加度と学年末の研究論文によって総合的に評価する。

01DE211

異文化言語比較演習 I

授業方法	演習
標準履修年次	1・2年
単位数	3単位
開設学期・曜時限	1~3学期 水曜日 3時限
担当教員	柳田優子
研究室	人文・社会学系棟 A623
オフィスアワー	予約により随時

教育目標・授業の到達目標

生成文法の理論的枠組み、また類型論の一般化を用いて言語の普遍性と個別性について考える。共時的、通時的な観点から、日本語を中心とした諸言語の文、名詞句構造、格システム、語順などのテーマを扱う。

授業概要

一学期：生成文法理論の理解を深めるための基本的文献を講読する。生成文法における言語の普遍性とは何かについて考える。日本語、英語を中心に、文や名詞句構造、移動に関わるテーマを扱う。二学期：類型論の基礎的文献を読み、類型論における普遍性と個別性について考える。三学期：日本語の格システムや語順について類型論の立場から検討する。言語間の類型学的比較方法を学ぶ。

成績評価方法

授業の参加度、期末試験、レポートなどを総合して評価する。

その他

01DE214

異文化言語習得論 I

(Second Language Acquisition I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 月曜日 2時限

担当教員 卯城（うしろ） 祐司

研究室 人文・社会学系棟 B609

(ushiro.yuji.gn(a)u.tsukuba.ac.jp)

オフィスアワー (予約) 火・水 17-18時

教育目標・授業の到達目標

本講義は、英語を外国語として習得することが、母語話者による第一言語習得のプロセスとどのような類似性と相違性を有するのか明らかにし、外国語としての言語習得および第二言語習得のメカニズムを解明し、教授方法および、その理論的枠組みとしての教授原理について、国内外の文献をもとに実践的な観点もふまえながら考察する。

授業概要

外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探り、その応用としてリーディング能力獲得への英文読解指導方法を提言する。

さらに、理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザインについて学んでいく。

成績評価方法

①レポーターとしての発表、文献研究発表、授業における討議への積極的参加、出席状況などにより総合的に判断する。

②評価の分配割合（レポーターとしての発表、文献研究発表、授業における討議への積極的参加 40%、レポート課題 60%。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。）

その他（参考図書）

- 1) 卯城祐司編著. (2009). 『英語リーディングの科学：「読めたつもり」の謎を解く』. 研究社.
- 2) 卯城祐司編著. (2011). 『英語で英語を読む授業』. 研究社.
- 3) Ushiro, Y. (2010). *Flexibility of updating situation models: Schema modification processes of Japanese EFL readers*. Tokyo: Kairyudo.

01DE215

異文化言語教育評価論 I

(Testing in Second Language Education I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 2時限

担当教員 平井 明代

研究室 人文・社会学系棟 B814

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

英語教育における言語習得と言語評価理論についての文献を読み進めることによって、教育効果や言語能力の評価方法を習得し、英語教育の現場や研究で実践できる能力を養うことを目標とする。

授業概要

言語熟達度の測定と評価の理論および方法論に関する文献を読み進め、言語テストの信頼性、妥当性の問題を議論していくことによって、それに関連する諸問題を認識し、今後の研究および教育現場で如何に活かすことができるかを考察していく。

成績評価方法

主に、1) ディスカッションへの積極的な参加、2) 論文の発表、3) レポートの内容によって評価する。

その他

積極的な参加を促すために、他の発表文献であっても必ず前もって読み、問題意識持って授業に臨むこと。また、発表者は文献をまとめるだけでなく、どのようにこれが言語評価に貢献できるのか位置づけて考えを述べられるようにしておくことが望まれる。

01DE217

異文化言語教育教材論 I

(Teaching Materials in Second Language Education I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3 学期 水曜日 3 時限

担当教員 久保田 章

研究室 人文・社会学系棟 B617

オフィスアワー 水 4 限、金 3 限 (要予約)

教育目標・授業の到達目標

この授業では、第二言語習得研究、特に認知的な研究を背景として、教材論の体系化をめざす。教材論の根本的課題とは何かについて理解を深め、問題意識を活性化するとともに、その課題に対する様々なアプローチの可能性を探ることを目標とする。

授業概要

言語教材論の観点から、言語の習得と教授にかかる理論的、実践的研究に関する文献を講読し、問題点について議論する。特に、言語習得のプロセスに教材が果たす役割を中心に、第二言語習得論、タスク分析、シラバス開発、テキスト分析等から多面的に検討する。

成績評価方法

オーラルレポートの内容、授業における議論への参加度、学年末の研究レポートの完成度、出席状況などを総合的に考慮して評価する。

その他 (参考図書)

Robinson, P. (Ed.) (2001). *Cognition and second language instruction*. Cambridge

University Press.

Samuda, V. & Bygate, M. (2008). *Tasks in second language learning*. Palgrave Macmillan. 他

01DE219

異文化言語運用論(1) I

(Seminar on Cross-cultural Language Performance (1) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 3時限

担当教員 長野 明子

研究室 人文・社会学系棟 B604 (内線: 4114)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

言語学（形態論・語形成分野）の基本概念と代表的理論を理解し、それらを用いて言語データを分析する技術を身に付ける。

授業概要

1学期は形態論の基本概念と理論を概観し、2学期・3学期は最近の関連論文を読み進める。また、3学期には、ある特定の形態現象を、複数種の形態理論で記述・分析し、そのそれぞれでいかなる世界（可能性）が見えてくるかを比較検証する。言語学の基本は自らの言語を対象化し客観視することであるので、口頭発表やレポートにおける参加者の言語使用も観察や分析の対象となる。もう一つの重要な基礎訓練として、英語の読み書きの訓練も厳密に行う。

成績評価方法

学期末のレポートと授業での口頭発表等で評価する。

その他

01DE221

異文化言語運用論（2）I

(Seminar on Cross-cultural Language Performance (2) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1～3学期 水曜日 2時限

担当教員 黒田 享

研究室 人文・社会学系棟 A713

オフィスアワー 随時（要事前予約）

教育目標・授業の到達目標

近年着目されるようになってきた「歴史語用論」アプローチの考え方に親しみ、その言語学上の位置づけについて考察できるようになることを目指す。

授業概要

「歴史語用論」的アプローチから書かれた研究文献を講読し、この研究方法が生まれた背景（例えば「文法化」研究の頓挫など）やその有効性について検討する。

成績評価方法

授業内レポート・学期末レポートにより評価を行う。

その他

01DE223

異文化言語運用論（3）I

(Seminar on Cross-cultural Language Performance (3) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 金曜日 4時限

担当教員 山田 博志

研究室 人文・社会学系棟 A719

yamada.hiroshi.ft@u.tsukuba.ac.jp

オフィスアワー 木曜 5時限

(事前にメールで連絡してください)

教育目標・授業の到達目標

フランス語代名動詞受動用法を正しく理解し、フランス語の他の構文との関連で、あるいは類型論的に、正しく位置づけることを目指す。また、受講者がこの授業を通してフランス語を対象とする研究の方法を理解し、各々の研究を進めていくうえで参考になることを期待する。

授業概要

フランス語の代名動詞受動用法について、その基本的なデータと主要な先行研究を紹介し、代名動詞受動用法の特徴について詳細に検討する。

成績評価方法

平常点（授業への参加度）をもとに評価する。

その他

教科書はなし。ハンドアウトを配布して授業を進める。参考文献は授業中に指示する。

01DE227

異文化コミュニケーションの会話分析 I

(Conversation Analysis of Cross-cultural Communication I)

授業方法	演習
標準履修年次	1・2年
単位数	3単位
開設学期・曜時限	1~3学期(6月～) 火4
担当教員	高木 智世
研究室	人文・社会学系棟 B809
オフィスアワー	火曜日 3時限

教育目標・授業の到達目標

会話分析の基礎的な知識と分析のスキルを身につける。

授業概要

前半は、会話分析の重要文献を講読しながら、事例を検討することを通して会話分析の視点と手法を学ぶ。後半は、各受講生が提供する事例データについて、共同で、詳細かつ厳密に分析を重ね、極めて複雑に組織された相互行為秩序の記述可能性を追究する。

成績評価方法

授業への参加度および年度末のレポートによって評価する。

その他

Harvey Sacks らによって開発された会話分析の入門の授業です。「異文化コミュニケーション」場面のみならず、様々な日常的相互行為場면을会話分析的視点で見ていくと何が見えてくるか、ということに関心がある方を歓迎します。

01DE 229

異文化言語演習(1)I

(Seminar in cross-cultural communication and language I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 木曜日 4時限

担当教員 磐崎 弘貞

研究室 人文・社会学系棟 B812 (内線: 4189)

オフィスアワー 火曜 4・6時限他 (要予約)

iwasaki.hirosada.gm@u.tsukuba.ac.jp

教育目標・授業の到達目標

- 1) 日英語の発想の違いを知り、英語論文執筆の基礎を理解する。
- 2) 論文執筆に必要な、references およびコーパス検索技術を理解する。
- 3) 英文要約の効果的な手法を理解する。
- 4) 主として英語教育学分野を念頭に、APAスタイルで投稿論文を仕上げる手法と推敲方法を学ぶ。
- 5) 国際学会を念頭に置いて、パワーポイントを使った研究発表の手法を学ぶ。

授業概要

毎週、課題を電子メールで提出し、それについて添削を受けたうえで、再提出をする。具体的には(a)アカデミックな文章の1節を取り上げ、その英訳を行う、(b)英語論文・本の一節を要約する、(c)執筆メモから投稿論文を構築する、の3点を実践する。

成績評価方法

授業への積極的参加、課題提出、レポート／発表を総合して評価する。

その他

毎回、英語学習辞典(書籍/電子辞書)を持参すること。

01DE233

異文化言語演習（3）I

(Seminar in Cross-cultural Communication and Language (3) I)

授業方法	演習
標準履修年次	1～3年
単位数	3単位
開設学期・曜時限	1～3学期 火曜日 5時限
担当教員	住大恭康
研究室	人文・社会学系棟 A718
オフィスアワー	予約により随時

教育目標・授業の到達目標

特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。

授業概要

特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら、そのテキスト構成上、および、コミュニケーション上の機能を検討する。

成績評価方法

授業内での発表や質疑応答、学期末のレポートなどにより、総合的に評価する。

その他

分析の対象とするテキストは受講生と相談のうえ決定し、発表・議論で参考にする文献は授業中に指示する。

01DE235

異文化言語演習（４）Ⅰ

(Seminal in cross-cultural Communication and Language (S) (4) II)

授業方法	演習
標準履修年次	1・2年
単位数	3単位
開設学期・曜時限	1~3学期 火曜日 2時限
担当教員	佐々木 勲 人
研究室	人文・社会学系棟 A707
オフィスアワー	予約により随時

教育目標・授業の到達目標

中国語文法に関する研究論文を読み進めながら、中国語の諸問題について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目標の一つである。

授業概要

主観性に関する研究論文を演習形式で読み進める。テキストとして『汉语主观性与主观化研究』吴福祥主編（商务印书馆，2011年）を使用する。参加者相互のディスカッションを中心に授業を進める。

成績評価方法

平常点による。試験・レポート等は原則として課さない。

その他

01DE237

言語人類学 I

(Linguistic Anthropology I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 木曜日 5時限

担当教員 井出 里咲子

研究室 人文・社会学系棟 B810 (内線: 4187)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのやりとりを、言語人類学、特に「ことばの民族誌」の手法を通して学ぶ。教科書の講読を通して分析の視点や理論について討議しつつ、受講者各自が実際にフィールドワークを行う作業を通して、自律的に課題を分析する力を身につけることを目的とする。

授業概要

一、二学期は、*Living Language: An Introduction to Linguistic Anthropology* (Ahearn, M. L. 2012)を用いて言語人類学分野の概要を学びつつ、「ことばの民族誌」の代表的論文を読み進め、この分野の方法論的理念についての理解を深める。二学期後半からは受講者各自がフィールドを確定し、データ収集とその記述について全体的に討議を行う。三学期は補足文献を利用しながら個々人のフィールド課題をリサーチペーパーにまとめる作業を行う。

成績評価方法

出席、授業への貢献度、課題、およびリサーチペーパーをもって総合的に判断する。

その他

